

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 1月15日

事業所名 児童発達支援センター こじか園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0	グループ保育に使用する部屋などは、登園児の状況に合わせて毎朝の会議で決めている。	スヌーズレン室を保育室としても使用できるように整備を進めたが、コロナの関係等の予備室として使用することとなった為、今後保育室としての使用を検討していく。
	2	職員の配置数は適切である	6	2	外勤職員が重ならないように調整をしている。	配置数は適切ではあるが、外勤や年休等で職員が不足しないように十分な調整を行う。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	0	床面はバリアフリーになっており、園児に合わせて視覚支援の写真やスケジュールカードなどを設置している。	遊具の種類や個数も配慮しながら設置し、構造化を進めていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	行事によって、パーティーを閉閉し、部屋の広さを変更して対応している。	毎日清掃・消毒を行いながら、加湿器の管理や遊具の破損などの確認を行っていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	働き方改革としてカイゼン提案運動を行い、業務負担軽減に向けて取り組んでいる。	今後もカイゼン提案運動を推進していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0	今年度は保護者向けの満足度調査と児童発達支援保護者評価を実施し改善につなげている。毎月の親の会の意見も参考に業務改善につなげている。	今後も保護者からの意見を反映させて改善を図っていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0	毎年実施しており、昨年度も掲示及びホームページでの公開を行った。	今年度も掲示と共にホームページで公開予定である。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	6		第三者評価は実施できていないため、今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	0	今年度はコロナの関係で外部研修会への参加はほとんどできなかったが、法人内や職場内でのDVD研修などに参加するとともに、部署内での保育士研修会を月1回実施している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	8	0	利用開始時には必ずアセスメントを行い、その後も半年に1回の頻度で見直しを行っている。	
	11	8	0	今年度から「TASP」を使用している。	
	12	8	0	児童発達ガイドラインに沿った書式を作成し、計画書を作成している。	
	13	8	0	支援計画会議は職員全員が参加し各児童の計画を把握し、保育場面では計画に基づいて対応するようにしている。	
	14	8	0	年齢や発達段階に合わせたプログラムを職員間で話し合いを持ちながら決定している。	療育内容の統一を図るために月間計画を作成している。
	15	8	0	子どもの状態に応じて柔軟に対応できるように担当者は随時変更している。	
	16	8	0	1日のプログラムに即した基本的な生活習慣や保育場面での社会性・集団参加等の目標を取り入れた計画を作成している。	
	17	8	0	毎朝の職員会議の際に1日の流れや保育内容の確認を行っている。園児や保護者の状況の変化や配慮事項の確認も行き、職員全員が同じ体制で取り組めるようにしている。	
	18	7	1	支援終了後の記録をする際に職員相互で情報交換を行い、気づいた点や改善事項があれば次の支援に繋げるようにしている。	保育をした職員が記入した個別記録を担当の職員に渡し、園児の様子を伝えることで、くわしい振り返りが出来るようにする。
19	8	0	日々の記録は抜けることがないように記入し、子どもの変化等にすぐに気付けるようにしている。	記録時間の確保ができるように、職員間で役割を分担し、協力をしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	0	定期的(6ヶ月毎)にモニタリングを行っている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	児童発達管理責任者や担当職員などが出席するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	7	1	サービス担当者会議などで同席する関係機関と情報交換をしている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	2	常時医療的ケアが必要な児童はいないが、けいれん発作などへの対応が必要なケースは受け入れており、必要時連携を取っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	1	救急搬送についての確認をとり、救急搬送時には対応してもらうようにしている。	医療的ケアが必要な児童の利用があった場合には、主治医との連絡体制の確保を必ず行う。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	保育所等訪問や施設支援などで情報共有をしている。	訪問出来ない時には電話により、早急な調整を図っていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8	0	個別支援計画書を提出したり、必要に応じて情報提供書を提出している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	他施設との交流や情報交換を行っている。研修会の開催の協力体制ができている。	コロナの関係で今年度は研修会の開催はできなかったが、次年度は実施予定である。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	5		交流できる機会を設定できていないため検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	7	知的障害者施設協議会の児童発達支援部会へは参加しているが、地域の子ども・子育て会議などには出席していない。	地域の子ども子育て会議などへの出席を検討していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	親子通園のため、日々保護者との情報交換を行い共通理解をするようにしている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8	0	年に2回全員対象にペアレント・トレーニングの講座を実施し、セッションは年長児童の保護者対象に実施している。ペアレント・プログラムは年中児の希望者対象に実施した。	今年度同様に、ペアレント・プログラム及びペアレント・トレーニングを実施し、保護者の心の安定を促し子どもへの対応方法を学べる機会としていく。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時に重要事項説明書と契約書の説明等を細かくおこなっているが、運営規程は説明していない。	重要事項説明書及び契約書と負担金などの説明の際に運営規程の説明も加えていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8	0	児童発達支援ガイドラインに基づき作成した児童発達支援計画書を示しながら内容を説明し、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	親子通園のため、いつでも相談できるが、希望に応じて個別面談を実施している。	個別相談の希望がないか、随時確認をしていく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	0	毎月1回親の会を実施し保護者同士の話し合いの場面を設定している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	親の会などでの意見については、職員間で検討し直ぐに対応し返事を周知するようにしている。個別の相談希望などがあれば迅速に対応するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	園だよりを発行するとともに、行事などは当日のスケジュールを事前に周知するようにしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8	0	保護者から個人情報の使用について、同意書をもらい使用する際は確認をしている。文書の廃棄はシュレッダーを使用し、保護者間でもSNS等に使用しないように注意喚起している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	各児童に理解しやすい方法での支援を心がけ、絵カードやスケジュールカードなども積極的に使用している。	発信の弱い保護者には職員の方から声をかけ話しやすい状況を作っていく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	5	今年度はコロナの影響で対外的な行事は実施出来なかった。	大分療育センターとしての対外的な行事が実施出来れば積極的に参加し協力していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	0	マニュアルの整備を行い、コロナやインフルエンザなどの感染情報は朝の会の際に周知している。	マニュアルについては、保護者への周知が少ないためオリエンテーションの時に周知するようにする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	避難訓練は毎月1回実施している。	日程変更にも過敏な園児には事前に避難訓練があることを伝えてから実施し、パニックにならない配慮をしている。今後も園児の状況も考慮しながら、避難訓練を実施していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	0	保護者に確認すると共に、けいれんの状況などは主治医から情報提供を受けている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	0	医師からの指示を保護者に確認して対応している。	食物アレルギー児が食事をする時にはテーブル配置などを考慮していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハットの事例は直ぐに対応し、改善策を職員間で検討している。	園内のヒヤリハットの事例は対応策を含め、保護者へも周知して安全管理に役立てていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	法人内や外部の研修会に積極的に参加している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	0	身体拘束については、対象となる事項について保護者に説明し同意を頂き、計画書に記載している。身体拘束を行った場合は書面で記録している。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。